第 18 回農業農村情報研究部会勉強会議事録（案）

日時：　平成 19 年 11 月 16 日（金）15:00-17:00
場所：　東大農学部 7 号館 A-717(セミナー室)
出席者：(順不同，敬称略)：大政謙次（東大)、溝口勝（東大)、大西亮一（日本水土総合研究所)、山本敦志（農水省)、小林和行（全国水土里ネット)、井上敬資（農工研)、吉迫宏（農工研)、町田聡（パシフィックコンサル)、大羽泉（ARIC)

１．報告事項

(1) 出版企画について

大羽氏（ARIC）より、今年度の部会報告書の作成および報告書の内容をベースにした出版企画の進捗状況について報告があった。スケジュールを含めた詳細を幹事会で早急に相談し、執筆候補者に原稿依頼することにした。

(2) ML による情報伝達方法の確認について

学会事務局から、部会員からメールによる部会開催等の案内が届いていない、との指摘があったので、2007 年 11 月現在の名簿を再確認することにした。学会事務局の担当者も部会名簿に加えることが了承された。

２．勉強会

(1) 大規模パイプラインのＧＩＳを用いた保守履歴管理システム（農村工学研究所　農村総合研究部 井上敬資 研究員）

- 農業用パイプラインの保守履歴管理 GIS の構築に関する研究が紹介された。
- 事例地区では、システムそのものというより髪ベースの台帳が PC で見られるようになったことが評価されている。
- パイプラインの水撃圧シミュレーションを GIS に落とし込むのではなく、モニタリングデータを GIS に落とし込むシステムにすべきとの指摘があった。
- ユーザとの連携をはかり、総合的なシステムと運用できるよう研究を発展させることが必要であるとの指摘があった。

(2) 農業用水管理システムに係る情報等の標準化（農林水産省　農村振興局　施工企画調整室 山本敦志 係長）

- 現在施工企画調整室で検討中の農業用水管理システムに係る情報化等の標準化について説明があった。
- インターネット等を介して水管理情報が入手できることは結構だが、全てを開示するのではなく、地元のユーザの視点に立って必要な情報のみを開示するようなシステムにすべきであ

るとの意見があった。

- 将来的に他分野との連携を図るために、行政としてはXMLの言語定義をきちんと整理しておくことの必要性が指摘された。
- 行政による農業用水管理情報の標準化をよりよくするために情報の専門家も加えて議論すべきとの意見があった一方で、検討途中の段階で公開するのは危険であるとの指摘もあった。

次回勉強会は１月に開催予定。

・話題提供候補者：　町田氏（(パシフィックコンサル)